

適正利用・エコツアーリズムWG担当 長期モニタリング新評価シート

(たたき台)

(評価者：適正利用・エコツアーリズムワーキンググループ)

| | | | |
|------------|---|-------------------------------|-----------------------------------|
| モニタリング項目 | No.19 適正利用に向けた管理と取組 | | |
| モニタリング実施主体 | 環境省（適正利用・エコツアーリズムWG事務局） | | |
| 対応する評価項目 | VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。 | | |
| モニタリング手法 | 知床白書掲載内容及びエコツアーリズム検討会議資料や行政機関等への聞き取り調査により適正利用に向けた管理と取組を抽出し列挙 | | |
| 評価指標 | 管理と取組の実施状況 | | |
| 評価基準 | 「知床エコツアーリズム戦略9. 具体的方策」を実現するための管理と取組が行われていること。 | | |
| 評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合 | | <input type="checkbox"/> 評価基準に非適合 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 改善 | <input type="checkbox"/> 現状維持 | <input type="checkbox"/> 悪化 |
| | <p>※調査結果（調査用シートの結果）から言えることを記載する。以下、例示。</p> <p>2010年、2015年、2017年（最新）を取りまとめた調査において、「エコツアーリズム戦略9. 具体的方策」の各方策について、管理や取組が継続して実施されており、新たな取組も積極的に行われていることが確認された。</p> <p>（1）利用コントロールについては・・・、（2）守るべきルールの設定と指導については、・・・と言える。</p> <p>以上から、2010年から2017年の期間については「評価基準に適合」及び「改善」と評価する。</p> <p>※評価のめやす 「現状維持」： 「改善」「悪化」以外の状況。 「改善」： 前年（過去）と比較して必要な管理や取組がより充実・拡充された。 「悪化」： 前年（過去）と比較して必要な管理や取組が縮小された。</p> | | |
| 今後の方針 | ※「評価」欄の内容を踏まえた今後のモニタリング方針等を記載する。 | | |

（評価者：適正利用・エコツーリズムワーキンググループ）

| | | | |
|------------|--|--|-----------------------------------|
| モニタリング項目 | No.20 適正な利用・エコツーリズムの推進 | | |
| モニタリング実施主体 | 環境省（適正利用・エコツーリズム WG 事務局） | | |
| 対応する評価項目 | VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。 | | |
| モニタリング手法 | 遺産地域利用関係者への聞き取り調査により適正な利用やエコツーリズムの推進状況を把握 | | |
| 評価指標 | 「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿った事業の実施状況、利用者の増減、客層の変化、管理に対する懸念 | | |
| 評価基準 | 「知床エコツーリズム戦略 5. 基本方針（1）、（2）」に基づき、適正な利用およびエコツーリズムの推進が行われているか。 | | |
| 評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合 | | <input type="checkbox"/> 評価基準に非適合 |
| | <input type="checkbox"/> 改善 | <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 | <input type="checkbox"/> 悪化 |
| | <p>※調査結果（調査用シートの結果）から言えることを記載する。以下、例示。</p> <p>2019 年度にとりまとめた調査において、「エコツーリズム戦略 5. 基本方針（1）、（2）」に基づいた適正な利用・エコツーリズムの推進が概ね行われていることが認められた。</p> <p>ガイド事業者等については・・・、行政機関については・・・である。利用者数・客層については、・・・</p> <p>以上から、「評価基準に適合している」及び「現状維持」と評価する。</p> <p>※評価のめやす</p> <p>「現状維持」：多くの事例で「改善」「悪化」以外の状況であり、適正な利用・エコツーリズムの推進が継続的に行われていると判断できる。</p> <p>「改善」：前年（過去）と比較して、必要な取組がより充実・拡充した。それにより、利用者数や客層が変化するなど、自然環境や利用への懸念が少なくなった。</p> <p>「悪化」：前年（過去）と比較して必要な取組が縮小した。それにより、運用状況の悪化や利用者数の急激な増加、客層の変化等があり、自然環境や利用への影響に懸念が増加している。</p> | | |
| 今後の方針 | ※「評価」欄の内容を踏まえた今後のモニタリング方針等を記載する。 | | |